

ジュニアコーチに求められる指導者像についての社会学的研究

安田 美咲 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 北村 哲

キーワード：ジュニアアスリート，指導者，条件，理想者像

1. 緒言

昨今求められるコーチ像とは、選手に信頼され、技術指導に特化するだけでなく、スポーツの楽しさをも教えられる指導者である。また、一人一人が持つ潜在力を理解し、選手にあった指導方法が求められる。そして、指導者は自ら学び続けなければならない。しかしながら、これらは指導者等の専門家による社会的知見からの検討であり、実際の子どもたちがどのような指導を受けてきたのか、また、その際に指導者にどのようなものを求めていたのかというリアルな経験からの検討は未だに不十分であると考え。そこで本研究は、小学校、中学校、高校の各ジュニア期の指導者について、指導の実態を明らかにするために、各時期にどのような指導を受けてきたのか、また、指導者にどのような条件を求めていたのかについて調査し、実際の指導者像、また、望ましい指導者像との GAP について検討することでジュニアコーチに求められる条件についての資料を得ることを目的とした。

2. 研究方法

1) 対象者

びわこ成蹊スポーツ大学の学生を対象に、小学校、中学校、高校生の全てのジュニア期にスポーツをしていた学生計 30 名を対象とした

2) 主な質問項目

- ① 小学 1～3 年生，4～6 年生，中学生，高校生の各時期の理想的な指導者について
- ② 小学 1～3 年生，4～6 年生，中学生，高校生の頃の実際どのような指導者だったのか

2) 集計分析方法

得られた自由記述の回答について、同じような意味の記述のものを集計し、全体の中での割

合を算出し比較した。その際、各記述について KJ 法にて抽象化し、新たなラベリングをすることで統一化した。

3. 結果と考察

①小学 1～3 年生の時期の理想の指導者は、圧倒的に親しみやすい指導者を求めている (図 1)。②小学 4～6 年生と中学生の時期の理想の指導者は、技術向上のスキルを高めてくれる指導者であった (図 1)。③高校生の時期の理想の指導者は、技術力を高めてくれる指導者であった (図 1)。中学生，高校生の時期では理解力のある指導者を求めていることが挙がっており、選手のことを一人一人深く理解し、潜在能力を引き出してくれる指導者が求めている。

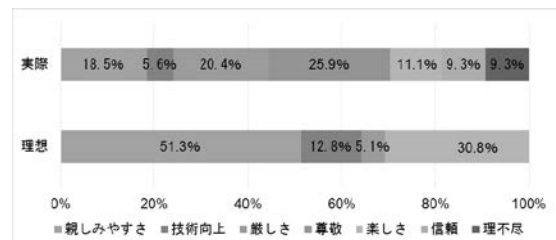


図 1 小学 1～3 年生の頃の理想と実際を比較した結果

4. まとめ

どの時期にも、実際と理想の GAP はみられた。年が上がるにつれ、指導者に求めるものが多くなり、一人一人に理解が必要であることが求められた。

主な文献

宮下充正(2004) 女性アスリート・コーチングブック. 大月書店：東京， p. 94.

千々布(2008) 子供教育 佐藤：東京 P. 102

平井伯昌(2008) 見抜く力 幻冬舎：東京， p. 172.